

〈解答〉

- | | | | |
|---|----------------------------|--------|--------|
| ① | 1 つぐな | 2 しんてい | 3 こうぼう |
| | 4 胸板 | 5 閉幕 | 6 順延 |
| ② | 1 たがいに | | |
| | 2 ウ | | |
| | 3 その家の小者 | | |
| | 4 [例] 主君が自分の後ろに立っている (14字) | | |
| | 5 工 | | |

配点 ②～5は各2点、他は各1点 15点満点

〈解説〉

- ①
- 1 「償う」は、「金品によって相手に与えた損失を補う」、また、「犯した罪などに対して金品や行為でうめ合わせをする」という意味。「償」の音読みは「ショウ」で、「賠償」「弁償」などの熟語として用いられる。
 - 2 「進呈」は、「人に物を差し上げること」という意味。「呈」には「差し出す」という意味があり、「贈呈」「献呈」という熟語も「進呈」とほぼ同じ意味で用いられる。
 - 3 「工房」とは、「画家、彫刻家、工芸家などの仕事場」のことで、外来語の「アトリエ」と同じ意味。「房」の訓読みは「ふさ」で、「ぶどうの房(花や実などが多く集まって枝から垂れ下がっているもの)」「ひもについている房(多くの糸を束ね、その先端を散らして垂らしたもの)」などのように使う。
 - 4 「胸板」は、「胸部の、板のように平らになっているところ」という意味。「胸先」「胸元」「胸算用(＝心の中で見積もりを立てること)」といった熟語の場合は、「胸」を「むな」と読む。「胸」の音読みは「キョウ」で、「胸囲」「胸裏」などの熟語として用いられる。
 - 5 「閉幕」は、「幕が下りて芝居が終わること」、「事件、行事などが終わりになること」という意味で、対義語は「開幕」。「幕」を使った慣用句に「幕を閉じる」「幕を下ろす」「幕を引く」といったものがあるが、すべて「物事が終わること」という意味。「閉」の訓読みは、「と(じる)・と(ぎす)」「し(める)・し(まる)」である。
 - 6 「順延」は、「順ぐりに期日を延ばしていくこと」という意味。「順延」と似た意味の熟語として「延期」があるが、「順延」は明日がだめなら明後日という具合に、順々に期日が延びていく場合に使い、一方「延期」は、三日後や一週間後など、期日が一足飛びに延びる場合に使うという違いがある。

② 「浮世物語」は、江戸時代前期に浅井了意によって書かれた、全六巻の作品。江戸時代に流行した小説の一種である「仮名草子」というジャンルのもので、平易な仮名文で書かれ、教訓的な娯楽作品として親しまれた。

1 古文に出てくる語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、それぞれ「わ・い・う・え・お」に直す。よって、「ひ」を「い」に直し、「たがいに」とする。

2 傍線②を直訳すると「この家の主君ほどの人は、どこにもおるまい」となる。傍線②の直前にある「わが主君のあしき事を語り出ださんと思ひて（＝自分の主君のよくないことを語り始めようと思って）」の部分の補って口語訳すると、「この家の主君ほどよくない人は、どこにもおるまい」となる。

3 傍線③の直前にある会話文の発言主は「その家の小者」である。「その家の小者」が、自分の主君の悪口を言おうとして、ふと後ろを振り返ったところ、主君がいたので、「その家の小者」は、悪口を言うのをやめたという話の流れをつかむ。

4 3の解説にあるように、「その家の小者」が、自分の主君の悪口を言おうとして、ふと後ろを振り返ったところ、主君が自分の後ろに立っていたので、とっさに「仏のようにすばらしい人だ」と言いつくろったのである。筆者は、「その家の小者」の変わり身の早さを、「まことにをかし（＝本当におもしろい）」と述べているのである。

5 本文の最後の一文にある「人の不善をいはず、まさに後の憂へをいはずべき（＝人のよくないことを言うならば、それはまさしく自分にふりかかってくるその後の災難をどうすればよいだろうか。いや、どうすることもできない）」という部分をヒントに、「災難がふりかからないようにするためにも、他人の悪口を言ってはならない」とある、エを選ぶ。また、ア「正しい学問を修めることが重要」、イ「用心深さや抜け目のなさを身につけるべき」、ウ「（不平不満に）耳を傾けよう」としない主君に仕えてはならない」の部分が適当ではない。

〔現代語訳〕

今となつては昔のことだが、あちらこちらの中間や小者といった身分の低い者たちがたくさん一か所に集まり、各自が主君のよくないことなどを、お互いに語り合つて、悪口を言つていた。その（中間や小者が集まっていた）家の小者が、自分の主君のよくないことを語り始めようと思つて「私の主君ほどの（よくない）人など、どこにもおるまい。もはや人とも思えない」（と言ひ、続けて）「もう人ではなくて）鬼だ」と言おうとして、後ろのほうを見たところ、主君がうしろに立っていらつしやるのを見つけて、（すぐに）「人ではない」と言い直して、「仏（のようにすばらしい人）じゃ」と言つたそう。本当におもしろい話であるが、（この話からわかることは）人の陰口などをけつて言つてはならないということである。（中国の戦国時代の著名な思想家である）孟子が（書物の中で）言うことには、「人のよくないことを言うならば、それはまさしく（自分にふりかかってくる）その後の災難をどうすればよいだろうか（いや、どうすることもできない）」ということだ。